

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	smile+ WAKABA			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 26日 ~ 令和8年 1月 16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16世帯	(回答者数)	6世帯
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 26日 ~ 令和8年 1月 16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・併設されている児童クラブとの定期的な交流が行えていること。	・①課題交流の中で役割を持ち、他児と関わる経験 ②自由時間における他児との自発的な関わり（自然交流）この2軸を計画することで、子供たちが集団参加のあり方や対人距離感を自発的に学べるよう支援すること。	・①②の支援を月に各1回ずつ行っているが、子供たちの様子に合わせて交流の機会を増やすこと。 ・個別に子供たちが無理なく安心して参加ができるよう支援すること。
2	・保護者学習会と合わせて療育参観を設けていること。	・先に学習会を実施することで、お子さんの理解を深めて参観をすることができる。 ・活動課題の時間だけでなく、その後の自由時間の過ごし方も参観できるようにしていることで、どちらの様子も見ていただけるようにしていること。	・より多くの保護者が参加できるよう、開催日時を再検討し、参加機会の確保に努める。 ・保育参観での様子を共有するだけでなく、家庭での姿についても情報交換を重ね、お子さんへの理解をより深めていく。
3	・センター的機能を利用し職員の質の向上に努めていること。	・職員間で学びたいテーマを検討し、現場で「今、必要」とされている知識や技術を習得できるようにしている。 ・研修後は職員間で振り返りを行い、その内容を環境整備や支援方法の更新に随時反映させている。	・質の向上により務められるよう今後も研修開催や参加ができるように検討していくこと。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎をする児童がほとんどのため、保護者様への利用内容を伝える時間があまりない。	・連絡帳等を通じて支援内容を伝えているが文章だけでは伝わらず、イメージしにくい。 ・電話での情報共有も行ったが、保護者の勤務時間等の都合もありなかなか時間を取るのが難しい。	・写真や動画を活用して支援内容を可視化し、見通しや安心感を持てるように支援していく。 ・電話や公式LINE、Zoom等のオンライン会議システムを活用し、保護者と円滑に情報を共有できる体制を整えていく。
2	・職員の質の向上を含めた研修への参加の機会が少ないと。	・研修開催場所が遠く、学びに行きたいと考えていても会場に行くことが難しいこと。 ・職員の人員配置上、時間を設けることが難しい。	・今後もセンター的機能を利用しながら外部の講師をお招きしての定期的な学習会を行っていくこと。 ・市町村の学習会などの情報を関係機関と連携を取りながら情報収集していくこと。 ・オンライン研修やオンデマンド配信を積極的に活用し、学びの機会を確保していく。
3	・社会参画や将来の自立に向けた、外部機関（職場体験先や地域ボランティア等）との接点がまだ限定的であること。	・法人内施設での社会参画を年2回おこない、子供たちの社会参画の経験を設けているが、子供たちの安全を優先した場合、それ以上の経験を設定することが難しかった。	・子供たちの安全を最優先に設定したうえで、今後近隣の店舗や施設との連携や安全対策を模索し、社会体験や奉仕活動などの機会を段階的に取り入れていくこと。